

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	日向魅力アップ事業			事業番号	24-102
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	経済環境部	石田 康弘	商工観光課	志村 政昭	

計 画 (Plan)

総合計画体系	活力	まちづくり目標	3	個性豊かで活力あるまち
		基本政策	6	産業の活力があふれる元気なまちづくり
		施策展開の方向	11	多くの人を訪れる賑わいのあるまちをつくる
		施策	24	魅力ある観光の振興
予算事業名	日向魅力アップ事業費			
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→		法令上の位置づけ	実施する規定はない
事業開始年度	開始年度	平成30年度以前	～	終了年度
関連法令等				
国・県の計画等	神奈川県観光振興計画		計画期間	令和元年度～令和4年度
関連個別計画	大山魅力再発見「平成大山講」プロジェクト ～体感！悠久の歴史・安らぎの霊峰大山～		計画期間	平成30年度～令和4年度
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	令和元年度の伊勢原・大山インターチェンジの開通及び令和3年度の県道611号(大山バイパス)の開通により交通アクセスの向上が図られる中で、広域からの集客など、観光を振興していく上で様々な波及効果が期待されるとともに、首都圏近郊の魅力ある観光地づくりが求められています。			
目的 (何をどうしたいのか)	日本遺産の構成文化財である日向薬師などの歴史・文化及び豊かな自然の魅力を生かした個性的なまちづくりを進め、地域団体や関係機関等との連携による地域の活性化を図ります。			
主な対象 (誰・何を対象に)	国内外から日向地区を訪れる観光客等			
事業内容 (手段、手法など)	<ul style="list-style-type: none"> ・彼岸花シーズン等における各種誘客・受入体制整備を行うため、日向地区の観光振興団体や交通事業者等と連携して、更なる誘客の強化を図ります。 ・安全・安心な受入体制を整備するため、登山道の修繕を計画的に実施するとともに、リピーターの確保に努めます。 ・新たな観光客の獲得及び隣接地域への周遊促進を図るため、観光協会と連携し、魅力的な日向地区観光PRパンフレットを作製します。 			
事業行程	項目	年度		
		令和3年度	令和4年度	
	日向地区で実施する企画イベント数	5イベント実施	5イベント実施	
	地元との観光振興に係る協議	協議内容に基づく観光振興策の実施	協議内容に基づく観光振興策の実施	
観光インフラ整備(案内標識の設置、ハイキングコースの整備等)	案内標識等の設置・修繕	案内標識等の設置・修繕		
	ハイキングコースの整備	ハイキングコースの整備		
目 標	【指標名】	年度		
	日向地区での企画イベントの実施による賑わいの創出	【現状値】	令和3年度	令和4年度
		1回/年(令和2年度)	5回/年	5回/年



事業実施 (Do)

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	日本遺産の構成文化財エリアとしての強みを生かした日向地区の歴史・文化的観光資源の魅力発信を、地元や関係団体、また、教育委員会と連携しながら推進し、更なる観光振興に努めます。また、道標や案内看板、登山道における必要な修繕等を実施し、受入態勢の着実な整備を図ります。なお、各種事業の執行にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑みながら慎重な判断及び対応を図ります。		
実施方法 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> すべて直接実施 <input checked="" type="radio"/> 左記以外		
	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者 (一社)伊勢原市観光協会
	<input type="checkbox"/> 補助金		補助先
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容
実施結果	項目	年度	
		令和3年度	令和4年度
	日向地区で実施する企画イベント数	2イベント実施	
	地元との観光振興に係る協議	未実施	
	観光インフラ整備(案内標識の設置、ハイキングコースの整備等)	ハイキングコースの整備	
実施した取組の内容	イベントについては、里地里山花いっぱいプロジェクト及び宝城坊宝殿特別展覧会を実施しました。地元との観光振興に係る協議内容に基づく観光振興策の実施についてはコロナの影響により見送りました。ハイキングコース整備については、薬師尾根及び日向薬師梅園階段の2箇所の修繕を行いました。		
目標の達成状況	【指標名】	【現状値】	年度
			令和3年度 令和4年度
	日向地区での企画イベントの実施による賑わいの創出	1回/年 (令和2年度)	2回/年

コスト	年度	令和3年度 実績				令和4年度 実績				
	内訳	事業費合計 (a)	323	千円					千円	
		国県支出金 ①	0	千円					千円	
		地方債 ②	0	千円					千円	
		その他特財 ③	0	千円					千円	
		一般財源 (a)-①-②-③	323	千円				0	千円	
	国県支出金の内容									
	その他特財の内容	受益者負担	<input type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無		前回の改定時期					
		その他								
	人件費	正規職員	0.13	人	1,063	千円		人		千円
		その他の職員		人	0	千円		人		千円
		人件費合計 (b)	0.13	人	1,063	千円		人		千円
	トータルコスト (a)+(b)		1,386	千円					0	千円
	単位当たりコスト	対象数	定義	日向地区観光客数		単位				
			対象数	130,416	人					
総事業費 / 対象数		11	円							

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 計画どおり (A) <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	B	左記判断理由	新型コロナウイルス感染症の影響により観光イベント及び地元との観光振興に係る協議内容に基づく観光振興策の実施については目標の達成には至りませんでした。地元や関係団体と連携した中でコロナ禍で対応できる観光イベントの実施に努めました。なお、観光インフラ整備については2か所のハイキングコース修繕を実施しました。
実施水準 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input checked="" type="radio"/> 一律に比較できない事業	—	他都市事業内容等	一律に比較できない事業であると考えます。
有効性 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 高い (A) <input checked="" type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	B	左記判断理由	新型コロナウイルス感染症の影響により観光企画イベントは中止や延期を余儀なくされ目標を下回りましたが、国の補助金を活用した日本博事業については感染症対策を行った中で実施したことで地域の魅力を外国人観光客にも知っていただく契機となったものと考えます。
効率性 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input checked="" type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	B	左記判断理由	観光イベント及び地元との観光振興に係る協議内容に基づく観光振興策の実施については、地元や関係団体と協議を図った中でコロナ禍でも実施できる方法を模索していく必要があると考えます。

↓
取組内容の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	隣接する大山地区や七沢地区(厚木市)をはじめとする他地域の観光資源を相互に活用し、多様な魅力を提供できる広域的な周遊ルートを確立することが必要です。
令和4年度取組方針		日本遺産の構成文化財エリアとしての強みを生かした日向地区の歴史・文化的観光資源の魅力発信について地元や関係団体、教育委員会と連携しながら推進し、更なる観光振興に努めます。また、道標や案内看板、登山道における必要な修繕等を実施し、受入体制の着実な整備を図ります。なお、各種事業の執行にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑みながら慎重な判断及び対応を図ります。		
所管部長による総評		地元と連携した誘客イベントの実施やハイキングコース修繕などの日向地区の魅力アップに繋がる事業については継続して進めることとし、国の補助メニュー等の活用による新規事業の実施についても模索していく必要があります。また、広域的な周遊ルートの確立やインバウンド対策としての多言語による観光案内表示など、コロナ収束後の反転攻勢を見据えた受入体制の整備についても継続して推進していく必要があります。		